

ギターCD レター from yakateru(第 45 号)

リュート、バイオリン、チェロの次は、フルート、ピアノ(チェンバロ)の編曲版を取り上げる。それにしても、編曲版も合わせると、BACH のギター曲は、何曲あるのだろうか。ソルやタレガにも匹敵する曲数がありそうである。しかし、片っ端からギター用に編曲すればいいというものではない!! 合わないものは合わない

40 号、41 号、42 号の続きで、数々ある BACH の作品紹介です

リュート、バイオリン、チェロ組曲(4)

41 号でリュート組曲を、42 号で無伴奏バイオリン組曲を、43 号でチェロ組曲を取り上げた。

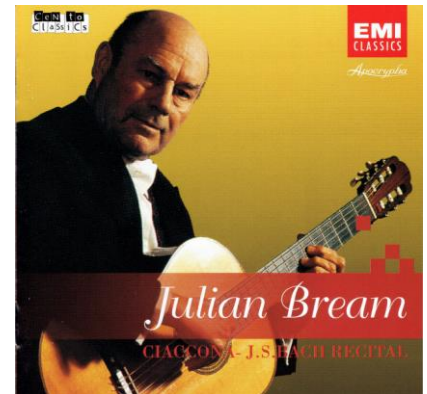
この他、組曲関連では、無伴奏フルートのための組曲をギター用に編曲したものがある。しかし、フルートの曲は、高音域での動きの激しいパッセージが頻繁に出てくる傾向があり、これは、なかなかギターでは苦しい。また、メロディカルではあるが、息が続く限りの長い音符についても、さすがにトレモロというわけにはいかず、なかなか表現できない。ということで、楽譜は持っているものの、まず弾かない、いや、弾けない。

むしろ、ピアノあるいはチェンバロの組曲をギター用に編曲したものが多数にあり、こちらのほうが楽しい。まあ、BACH のチェンバロ曲のいくつかは、リュートと代替可能なので、ギター編曲でも OK ということなのだ。イギリス組曲やフランス組曲から抜き出した曲、さらに、組曲ではない個別の編曲もの、例えば、2 声のインベンションとフーガや、平均律、数百曲あるカンタータからの編曲もの等、数え上げたらキリがない。

多くの作品のなか、これだけは書きたいというものが、「プレリュード、フーガ、アレグロ」と、ピアノのための組曲パルティータ第 5 番のギター編曲版である。

まず、パルティータから紹介する。この曲は、第 10 号で紹介したジュディカエル・ペロアの CD に全曲版がある。ピアノで弾く、つ

まりは 10 本の指がそれぞれ独立して弾く(ピアノではあたりまえか!) 大曲・難曲であるが、これを、右手左手が連携して 1 つの音を出すギターで弾こうというのだ。それもデュエットでなくソロで。独立した指の数から言えば、4 対 10 の勝負で、戦国合戦だったら大負け覚悟の大勝負である。まずは、楽譜にするとことまでは、トリストアン・マニュキアン(おそらくフランス人のギタリスト)が、頑張った。さあ、それを誰が演奏するのだ。4 対 10 だぞ。ということで挑んだのが、ペロアだ。彼は、西南大学のコンサートホールで聴いたが、難曲を軽々と弾くことができるギタリストの一人である(この時は、パルティータは弾かなかったが)。CD では、一音一音がクリアーで透明感のある音色で、このパルティータを完全に弾きこなしていた。そのマニュキアンが編曲した楽譜が手に入ったこともあり、私としても、ペロアがやれるのであれば、私にもできる!! なんてね! なんとかなるだろうとタカをくくっていたが、このパルティータは凄かった。技術的には、シャコンヌが難易度 D とすると、このパルティータは、H ぐらいはいくのではないかと、ともかく、極めて緩いテンポでも、指がついていかない。2 声であること(フーガのような 3 声までいかない)、それと、譜読み・初見には自信があるので、まあ、通すだけであれば 2、3 日かと思っていた。が、ここまで苦労するとは思っていなかった。毎日進むのは、硬い岩盤のト



ンネル工事のように、毎日数センチ(数小節)つつクリアしてることになった。しかし、1ヶ月ぐらいかけて、最初のシンフォニアを制覇!? できたときは、喜ぶというよりは疲れ果てていた。その後、アレマンデ、クーラント、サラバンデまではなんとかクリアできた。

と、つらつらとパルティータの攻略自慢話を書いてきたが、この軟弱な私がここまで攻めることができたのは、このパルティータのシンフォニアが、とてもかっこいい曲であったことが、大きな原動力であった。

さて、「プレリュード、フーガ、アレグロ(略して PFA)」。原曲は、リュートあるいはチェンバロのための曲だ。プレリュードとフーガというペアは、平均律やインベンションで見ると一般的だが、これにアレグロが加わると協奏曲の 3 楽章形式(急-緩-急)に変身する。ある説では、このアレグロは BACH 自身の作曲ではないと言われているらしいが、変身のためには欠かせない。この PFA は、私の「座右の曲」である。

さて、今日のお勧め CD は、PFA で、再登場のジュリアン・ブリーム版である。正統派的な、落ち着いた PFA である。もう少し、プレリュードは、色気がほしいが。(続)

J.S.バッハ J.S.BACH

プレリュード、フーガ&アレグロ 変ホ長調 BWV998 PRELUDE, FUGUE & ALLEGRO, BWV998

- | | | |
|---|----------------|-------|
| 1 | プレリュード Prelude | 2'56" |
| 2 | フーガ Fugue | 6'54" |
| 3 | アレグロ Allegro | 2'54" |

組曲 ホ短調 BWV996 (リュート組曲 第1番) SUITE in E minor, BWV996

- | | | |
|---|-----------------|-------|
| 4 | プレリュード Prelude | 3'03" |
| 5 | アルマンド Allemande | 2'09" |
| 6 | クーラント Courante | 3'31" |
| 7 | サラバンド Sarabande | 4'42" |
| 8 | ブーレ Bourrée | 1'32" |
| 9 | ジーク Gigue | 3'34" |

10 シャコンヌ 二短調 (無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ 第2番 BWV1004より)
CIACCONA (CHACONNE) in D minor (from PARTITA FOR VIOLIN SOLO No.2, BWV1004)

11 組曲 ホ長調 BWV1006a (リュート組曲 第4番) SUITE in E major, BWV1006a

- | | | |
|----|------------------------------|-------|
| 11 | プレリュード Prelude | 4'42" |
| 12 | ルール Loure | 4'22" |
| 13 | ロンド風ガヴォット Gavotte en Rondeau | 3'26" |
| 14 | メヌエット I & II Menuet I & II | 5'27" |
| 15 | ブーレ Bourrée | 1'55" |
| 16 | ジーク Gigue | 2'18" |

ジュリアン・ブリーム (ギター)

JULIAN BREAM, guitar

Recorded: 6-9 October & 2-7 November 1992, Fordingbury Abbey, Dorset

Producer: David Griggs

Balance Engineer: Michael Sheehy

企画・発売: SHINSEIDO yamaha music TOWER RECORDS 制作: TOSHIBA-EMI LIMITED

05・11・9 © DIGITAL RECORDING STEREO MADE IN JAPAN ©2005

このCDは、権利者の許諾なく複製等に使用すること、個人的な範囲を超える使用目的で複製すること、ネットワーク等を通じてCDに収録された音を送信できる状態にすることを禁じます。

EMI
CLASSICS

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO